

令和3年度ルールメイカー育成プロジェクト実施報告書

学校名	広島県立西条農業高等学校
-----	--------------

1 取組のねらい

- (1)身の回りのルールに対して生徒が主体となり、先生・保護者・地域などの関係者との対話を重ね、課題発見・合意形成・意思決定する力を育むこと。
- (2)関係者で協働して、よりよい校則をつくること。
- (3)関係者が一体となった学校風土や関係性を育むこと。

2 取組計画・取組内容

(1) プロジェクト委員会

回	日付	内容
1	9/29	プロジェクト説明, 年間計画
2	10/12	本校の課題, アンケート①計画
3	10/26	アンケート①結果の分析
4	11/ 9	見直し項目の検討, 役割分担
5	11/19	改定案の協議
6	12/ 7	改定案の協議
7	12/21	アンケート②計画
8	1/18	アンケート②結果の分析
9	2/ 2	改定案の決定, 試行準備
10	3/10	改定案の課題整理, 次年度の規程の協議

(2) アンケート概要

回	時期	対象	目的
1	10/15 ~10/22	保護者 生徒 教職員	現規程に対する意見 見直しを望む項目
2	1/11 ~2/1	生徒 教職員	改定案に対する意見

3 取組の創意工夫（活動の様子）

工夫した点

- (1) 組織作り  
生徒が意見を出しやすくするため、若手教員を選出した。また、若手教員に研修的な効果を期待している。学年主任をオブザーバーとして選出した。
- (2) 意見交換しやすい環境作り  
生徒や保護者、教職員に対し、時間の制約なく回答できるClassiでのアンケートを活用した。
- (3) 学校関係者の一体感, 充実感  
生徒からの意見に対して、耳を傾け、できる限り回答を行った。



4 成果（生徒や教職員等の変容等）

- ・生徒及び教職員間において、意見の言いやすい雰囲気が出た。
- ・今までの「規則を守るだけ」という意識から「なぜ規則ができたのか」、「どのような規則にすれば、より良いのか」など生徒自身が考える機会が増えた。
- ・生徒が、様々な考え方、価値観に触れることができた。その中でコンセンサスを得るまでの過程を論理的に考え、説明するなど、課題解決に向けた取り組みを行うことができた。

5 課題や気づき（今後に向けて等）

- ・時間的制約もあり、教員が主導的役割を担う場面が多くなった。
- ・規則の根本的な意義や経緯、平等や自由などの意味といった規則を決める以前の部分に対して、時間をかけて考えることが必要である。
- ・指定物の変更などは、業者と半年以上前から連携を図っておく必要がある。